平成 24 年 8 月 1 日
第 63 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 黒瀬和美
電話 972・5819

生きる喜び 踊りの輪



にこやかに、しなやかに、そして力強く。踊ることは喜びの表現のひとつ

第34回ふしの夏まつりが7月28日、東津河川公園で開催されました。新幹線の高架橋が椹野川を横断することになり、一時途絶えてしまった「小郡の花火大会」が昭和53年に復活して、現在に至っています。

小郡の「十七夜」といえば大花火大会として知られていました。その当時は西日本一の規模と呼ばれていたこともありました。

現在は、あちらこちらで花火大会が行われ、さほど珍しいものではなくなりました。

代わって小郡総踊りとして「小郡音頭」や「ふしの踊り」などが踊られることになり、たくさんの団体が参加しました。しかし、これも少しずつ減っていき、地区として参加するところも年々減少しています。

こうした中で八方原区は毎年参加を続け、踊りの輪を広げています。これがしっかりした地域力を確かめ合う良い機会かも知れません。



今年の花火は唐津の花火師の力作

水漏れを見つけた

7月3日朝、夜来の雨が上がってみると、水路のコンクリート壁にいくつか問題のある箇所が露見していました。

ここは西ノ池と呼ばれる圃場の近くですが、圃場から水路の方に水が流れ出ているのを発見しました。これでは圃場の水のコントロールができません。早い時期に手当をする必要があります。



噴水のように水が吹き出だしている

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

流れの周辺をきれいに

7月21日、椹野川の沿線の住民や団体が周辺の一斉清掃を行いました。この「椹野川クリーンキャンペーン」は以前は、ふしの夏まつりの翌日の一斉清掃と一緒に行われた時期もありましたが、現在では別々に行われています。地区では区長、公民館長、会計役、衛生部長と各班役員さんが参加してくださいました。

道路通行者のゴミなどがあとを断ちません。新しいポイ捨て防止の立て看板もできたのですが。なにはともあれ、ご苦労様でした。



歩道の周辺にはさまざまなゴミがある

道路の下で水路が漏水



6月15日、降り続いていた雨の被害が出ました。林道東側の林道が市道に交わる交差点（三心石材事務所付近）の舗装が地面の下の水路漏水で陥没したのです。

上の写真で分かるように、市道の法面に一部穴があいてしまい、用水路に流れ込みました。

7月初旬に緊急の修理が行われ、道路の下の水路や法面もきれいに修復されました。この部分には水路だけでなく、水道管その他が埋められていますのでもしもそのまま放置すると、大変な事態になっていたかも知れません。

この工事の際に区長は業者にお願いしてすぐ脇にある沈殿枡の泥も除去させました。2トンダンプに3杯分の泥があったそうです。

雨の中 市道の草刈り共同作業

6月24日、市道の草刈りが行われました。舗装されていない頃はまさに「道普請」でしたが、舗装された道では周辺の草刈りが主な作業です。

当日はあいにくの雨でしたが、殆どの方々が作業に当られました。各班ごとに受け持ち区域での作業と、市道横の公有地の草刈り作業があります。この部分は傾斜もきつく、広さもあるので毎回作業は楽ではないです。

作業は1時間ほどで終了しました。楽な作業ではありませんが、こうした共同作業を通じて、お互いの絆を確かめることも重要なことではないでしょうか。



しっかり雨の対策をして、作業前の打ち合わせ

「花火殻撤収」ご苦労様でした

ふしの夏まつりで行われた花火は約3000発と言われています。花火はボール紙のような厚紙の半球の中に火薬を詰め込んで作られます。

打ち上がった花火は空中で分解しますが、この厚紙の部分があちこちに落ちてきます。道路や橋の上は花火殻がかなり降ってきています。毎年この花火殻の撤収作業を短時間に行う必要があり、昨年から八方原地区の有志にこの作業のお手伝いをお願いしています。今年は県道の東津橋から南側を担当しましたが、当日の風向きで特に多くの花火殻を多い部分となりました。

作業は簡単ではありませんが、チームワークよく作業を行っていただき、予定の時間内に作業が終了しました。

大変お世話になりました。ありがとうございました。

実行委員長　横山洋之
場内安全担当　原田茂樹